



谷原小だより 3月号

平成 25 年 3 月 1 日
練馬区立谷原小学校
校長 眞瀬 敦子

忘れられないこと・忘れてはいけないこと 校長 眞瀬 敦子

弥生3月、早いもので新校舎に引っ越してから2か月が過ぎようとしています。子供達はもうすっかり新しい環境にも慣れ、毎日をのびのびと暮らしていますが、そんな中、先月の下旬からいよいよ旧校舎の取り壊しが始まりました。

昔は建物の解体といえば、要らないものは何でも置いていき、全て一緒くたにして壊していましたが、今はその後の再利用を考え、扉から金具までどんな小さなものでも全て分別して取り除き、文字通り建物だけにしてから解体が始まるのですが、その方法を皆さんは御存知ですか？

それは極力騒音を押さえるため、自在に動くクワガタのハサミそっくりな巨大な鉄の鋏で、鉄筋を切り取り、コンクリートの塊をむしり取っていくというものなのです。

私は初めて見たときに、その破壊力の凄まじさに圧倒されてしまいました。環境のため、埃を立てないように2方向から放水をし、慎重に作業してくださっている工事の方々には申し訳ないのですが、あまりに非人間的で圧倒的な破壊力の下に、私達を守ってくれていた堅固な鉄筋の校舎はひとたまりもなく崩されていくのです。大人の私でも強いショックを受けたこの光景ですが、それでも私は子供達に見せなくてはいけないと思いました。

担任に連れられて校舎が壊されていく様子を見た子供の中には、泣き出す子もいました。

破壊のパワーの凄まじさに驚かされた子、今までの自分達の楽しい思い出を作ってくれた校舎を思っ
て悲しむ子、どの子も様々な思いを胸に抱いたようでした。新しい美しい校舎の陰に、こういうこと
もあるのだということ、私達のために働いてくださっている方達の姿を含めて、子供達にはしっ
かり記憶しておいて欲しいと思います。

瓦礫の塊と化した校舎は又、あの大地震に続く津波を受けた被災地の景色を彷彿とさせました。
今更ながらに、どれほどの破壊のエネルギーが被災地を襲ったのだろうかと思いました。

あれから2年が経とうとしているのに、今もなお2698名の方の行方が分からず、2年で解消されるはずだった仮設住宅は未だにその役目を終えることができないばかりか、復興の目処も立たない被災地。そこで暮らす人々、子供達は、毎日をどんな思いで過ごしているのでしょうか。

昨年、東京都から全校児童に配布された「つなみー被災地のこども80人の作文集ー」を私は今も時々開いて見ます。

例えば、取材のカメラにひょうきんな笑顔を見せ、「津波と追いかけてっこをしたもんね」と語った、当時3年生の及川佳紀(よしき)君。実は津波で家も両親も流され、おばあちゃんと弟と暮らしているというキャプションが付いていました。お父さんの遺体は4月下旬に見つかったとのことですが、お母さんの行方は分かったのでしょうか。陸前高田市には戻れたのでしょうか。

東京都は先月、全5年生に「3・11を忘れない」という防災教育補助教材を配布しました。そこには、『まず自分の命を守り、次に身近な人を助け、更に地域に貢献できる人になるために』と書かれています。

私達には、忘れてはいけないこと、できることがまだまだ沢山あるはずです。



クラブ発表

特別活動部 池田 航

今年度もそろそろ終わりに近づき、4、5年生は来年度に参加するクラブを決める時期になりました。3年生にとっては、初めて入るクラブを決める時です。そのため、いま活動している14のクラブでは、この一年間でどんな活動をしているのか、どんな成果が出たのかを紹介するため、クラブ発表会を行いました。今年度は、ビデオ上映と実演と展示の3パターンでクラブ発表をしました。

ビデオ上映は、朝の集会の時間を使って、球技・卓球・工作・昔遊び・マジッククラブが行いました。どのクラブも楽しそうに活動をしている様子を紹介しました。

実演発表は、クラブの時間に体育館に3年生以上の児童が集まり、室内スポーツ・マンガイラスト・音楽・ダンス・お笑いクラブが活動の様子を実演しました。室内スポーツは、かっこいいパスを見せました。マンガイラストは、何十枚も書いたイラストをパラパラ漫画のようなスライドショーを上映しました。音楽は、迫力のあるジョイフルの演奏しました。ダンスは、キレのあるダンスを音楽にのせて披露しました。お笑いは、ちょっと長めのショートコントで会場を大いに盛り上げました。

展示は、パソコン・手作り・科学・いきものクラブがホールで行いました。各クラブとも一生懸命に、工夫を凝らしたクラブ紹介となっており、見ている方も楽しくなりました。

クラブ活動は4、5、6年生の高学年が、自分の興味あるクラブを選んで活動します。どのクラブも異学年の仲間と、助け合い仲良く楽しく活動していることが実感できるクラブ発表会となりました。

6年生を送る会

特別活動部 小岩 玲子

今日、3月1日。3・4校時。6年生を送る会が行われました。

6年生は、1年生と手をつないでスポットライトを浴び、リコーダー伴奏の中を体育館へ入場しました。入口に立った時、5年生から一人一人のプロフィールが紹介されました。舞台前に着席し、始めの言葉の後、各学年から6年生への感謝の出し物が贈られました。

1年生は、呼びかけと劇。そして、感謝の歌を贈りました。入学の日から一つ一つ手を取って教えてくれた6年生への思いはひとしおです。首にペンダントをかけてあげると、6年生は「ありがとう」とやさしい笑顔で握手の手を出していました。

2年生は、『だれにだっておたんじょうび』の曲にのせて委員会活動への感謝の言葉と拍手を贈りました。6年生も2年生の呼びかけに元気な返事で応えました。体育館の壁には、2年生が描いてくれた6年生の似顔絵が、やさしく微笑んでいました。

3年生は、『3年生がいっぱい6年生がいっぱい』3年生の呼びかけに応じて、ダンスや縄跳び、体操、ものまねを披露する6年生は、「さすが！」無茶振りにも堂々と応える6年生でした。

4年生はヒゲダンスの曲にのせて「マジック」「けん玉」「こま」「一輪車」「縄跳び」を披露しました。みんなそれぞれの特技をもっていて素晴らしかったです。また合唱で「スマイルアゲイン」を手話も交えて歌いました。

6年生は合奏『ハンガリー舞曲第5番』を演奏しました。素晴らしい演奏に「アンコール！」の声。そのの応えての再演奏は、さらに迫力あるものでした。

最後に、谷原小の校旗と児童会旗が6年生から5年生に引き継がれました。受け取った5年生は、その重みをずっしりと感じたようでした。

在校生から贈られた言葉『ありがとう 未来に向かって一歩ずつ』を正面に、思い出に残る会になりました。

連合学芸会の鑑賞記録から

1月31日、5年生が練馬区の代表として東京都の連合学芸会に出ました。オリンピックセンターで「ぞうれっしゃよ 走れ！」を上演しました。すばらしい劇でした、その時の記録が送られてきました。

「すばらしい！！一人一人がよく動いていました。歌よし、演技よし。」「台詞、歌、振付、動き全てハイレベルで作品のテーマを伝える情感もありました。」「とにかく歌がすばらしい。感動的な舞台でした。」

教室だより（各学年・専科より）

1年生

1月の祖父母との交流会に続き、2月には、2年生との交流会をもちました。2年生が用意してくれた普遊びのお店に招待され、とても親切に教えてもらいました。どのお店でも上手に遊ぶコツを優しく教えてもらい「あんな2年生になりたいな」との感想を述べていました。

また、2月の5、6年合同の合唱発表を聞いた1年生は、その歌声に感動し、「あんな歌が歌える5、6年生になりたい」と、皆が5、6年生へのあこがれをもったのでした。

その6年生が卒業でいなくなってしまうということで、感謝の気持ちを交流給食会で手紙にたくして渡しました。

今日の《6年生を送る会》では、4月の1年生を迎える会で手をつないで入場してくれたお返しに、6年生と手をつないで入場し、手作りのレイを6年生の首にかけました。

4年生

今年度に10歳の4年生。2月16日（土）に『1/2成人式』を行いました。子供達の「お手紙」や「自分史」「出しもの」「呼びかけ・歌」はいかがでしたでしょうか。子供達はこの日に向けて、積極的に話し合いや練習、準備を進めてきていました。

また、当日は多くの保護者の方にも参加していただき、ありがとうございました。特に保護者のからのお手紙で、子供達は10年間の愛情を感じ、そこからこれからは頑張っていこうという気持ちを改めもったようでした。

4年生も残り1カ月となりました。5年生に向けてラストスパート。これからもよろしく願います。

2年生

今、生活科の「ひろがれ、わたし」では、生まれてから今日までの成長を、家族へのインタビューをもとにまとめています。自分の赤ちゃんの写真を見ながら、ちょっぴり照れくさそうに、でも嬉しそうにまとめている子どもたち。先日の1年生に普遊びを教える姿を見ても、いつの間にかしっかりお兄さんお姉さんになってきたなあと思うのです。国語の最後の単元は「楽しかったよ、2年生」。家族やお友達、先生などたくさんの人々に囲まれ、支えられて成長してきたことを確かめながら1年間を振り返り、楽しかった思い出を文集にしていきます。

5年生

きょうは「6年生を送る会」でした。5年生は、2月中旬から、準備を進めてきました。谷原小を飛び立っていく6年生が一番輝いてくれるよう、5年生は、リコーダー演奏をバックにスポットライトをあてて、6年生一人一人のプロフィールを心をこめて紹介しました。それぞれの仕事に責任をもって取り組み、会を成功させることができました。いよいよ次は自分たちが最高学年になり谷原小をリードしていく番です。谷原小学校の顔としての自覚をもち、下級生の良い手本となれるよう、一人一人が考えて行動してほしいと願っています。

3年生

3年生は、2月8日に社会科見学に行ってきました。「べじふるセンター」、「練馬区役所」、「ふるさと文化館」をバスで回りました。この日のために、持ち物を準備したり、メモの書き方を学習したり、当日までわくわくどきどきでした。

そして8日、よい天気にも恵まれ谷原小学校を出発。べじふるセンターでは、大きな冷蔵庫の中に入れてもらったのですが、その日はとても寒い日で冷蔵庫の中のほうが「あったかい」と子供が一言。練馬区役所の展望台では、等身大のねり丸くんがいて、子供も先生も大はしゃぎ。ふるさと文化館では、社会で学習した昔の道具に実際に触れることができました。この1日を通して、一生懸命にメモを取る姿、移動するときの並び方など、成長した3年生を見ることができました。もうすぐ4年生です。

6年生

卒業まで20日を切りました。刻々と時が過ぎゆく中、巣立ちの会と6年生を送る会がありました。巣立ちの会では、実行委員と卒業対策委員会の保護者の方が中心となって、素晴らしい会を開いてくださいました。学校関係者の方々にも感謝の気持ちが伝えられたのではないのでしょうか。また、昔のスライドを見ることで心身ともに大きく成長したことが分かりました。

6年生を送る会では、下級生の感謝の気持ちに応えるために、迫力のあるボディスラップと合奏を披露しました。どちらの会でも6年生の顔がとても充実していたのが印象的です。

大きな行事は卒業式を残すのみとなりましたが、小学校生活の学習、生活の総まとめをしっかりとし、「立つ鳥跡を濁さず」という言葉のように、下級生にきちんとバトンを渡せるようにします。

「新校舎で思うこと」

図工専科 吾妻 彰

昨年末に新校舎への引っ越しを無事に終え、新しい校舎での生活が始まり、早2ヶ月経ちました。明るくきれいな校舎での生活も次第に慣れてきました。最初のきれいな校舎内はとても気持ち良かったですね。これからもこの気持ち良さをいつまでも保てるように、汚したり、壊したりしないで大切に使いしていきたいものです。図工室も溢れるほどの荷物でしたが、ようやく片付きなんとか授業をしています。ただ材料や道具、室内のレイアウトなどまだまだ場所が決まらず、子ども達の要望に十分応えられていません。実技教科において、いかにそれらが大切ことであるか、あらためて感じています。子ども達が材料や道具、技法など様々なモノと出会い、心動かされ、作品づくりなどすてきな造形活動ができるように、これからも子ども達の様子を見てみんなが使いやすいように改善していきます。子ども達への願いとして、自分の気持ちや、自分らしさを精一杯表現することや、友達や人の作品を見る時に、作った人の思いや、良いところをたくさん感じとれるようになって欲しいです。今年も図工室から、すてきな作品がたくさん生まれることを楽しみにしています。